

安貴王の歌一首 并せて短歌

五三四番

遠妻とほつまの 二にこにしあらねば 玉梓たまほこの 道みちをた遠とほみ
思おもふそら 安やすけなくに 嘆なげくそら 苦くるしきものを
み空そらゆ行く 雲くもにもがも 高たかと飛とぶ 鳥とりにもがも 明あ日す
行ゆきて 妹いもに言こと問とひ 我あがたために 妹いもも事ことなく
妹いもがたため 我われも事ことなく 今いまも見みること たぐひて
もがも

反歌

五三五番

しきたへの 手枕たまくらまかず 間あひだ置おきて 年としそ経へにけ
る 逢あはなく思おもへば